

## 子どもたちに人気の施設がやってきた アウト・オブ・キッズニアでお仕事体験

6月28日、子どもたちに人気の職業・社会体験施設「キッズニア」が「アウト・オブ・キッズニア・イン・えひめ」として、消防防災センターにやってきました。

抽選で選ばれた93人の子どもたちは、製紙会社の品質検査員や消防士、テレビ局のスタッフになつて、先輩社員からプロ



の技を教えてもらいながら、憧れの職業を体験しました。キッズニアでは、仕事を終えた子どもたちに専用通貨「オーレ」でお給料が支払われます。会場内に設置された駄菓子屋コーナーでは、子どもたちがお給料とにらめっこしながら、商品を選んでいました。

## 初夏の里山に鮮やかな彩り 新宮あじさいまつり&嶺南あじさい鑑賞会

里山の緑に映える鮮やかな花々を楽しむようと、今年も多くの行楽客が市内のあじさいの名所を訪れました。新宮町上山のあじさいの里では、6月7日から29日に掛けて「新宮あじさいまつり」が開催されました。来場者は、モノレールに乗ったり、遊歩道を散策したりして、斜



- TEAMおひなす**
- |           |             |
|-----------|-------------|
| AIPA      | アイム         |
| イトウ       | 今村紙工        |
| カクケイ      | 協和紙工        |
| 江南ラミネート   | サクラ・シノコウ    |
| ジョブプロジェクト | スバル         |
| 大黒工業      | トーヨ         |
| ヒカリ紙工     | ビューティー・セレクト |
| 富士印刷      | 本田洋行        |
| モリオト      | やまと印刷       |
| 山中商事      | 多羅富來和紙      |



7月2日から4日に掛けて、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された「国際文具・紙製品展」に、本市と市内紙関連企業20社が合同で出展しました。国内外から1100社が参加し、4万人以上が来場する日本最大の展示会で、本市は今年も「日本一の紙のまちブース」を設置しました。ブースには「おひなすロゴ」をあしらひ、各社自慢の製品や技術を展示しました。会期中は多くの来場者が当ブースを訪れ、各企業のコーナーで活発な商談が行われました。この出会いが、関係人口の拡大や新たな販路の開拓につながることを期待されます。

## 日本最大の文具・紙製品展「ISO<sup>T</sup>」で 「チームおひなす」がシテイプロモーション

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



### コンサートの収益で能登を元気にしたい ジャズドラマー 堤宏文さんが義援金

6月12日、本市出身でジャズドラマーの堤宏文さんが、4月にしこちゅーホールで開催したコンサートで得た収益の一部などを能登半島地震災害義援金として寄付しました。

堤さんは「能登の美しい景色が一日も早く戻るように、これからも支援を続けたい」と、活動に懸ける意気込みを話しました。



### 社会を明るくする運動が 200人のパレードでスタート

7月は、犯罪のない安心安全なまちを目指す「社会を明るくする運動」の強調月間です。

7月1日に保健センター前で行われた出発式には、運動を推進する37の団体などから約200人が参加。松柏保育園の園児による元気いっぱいダンスと応援メッセージを受けて、啓発パレードを行いました。



締結式に出席した株式会社コメリ中四国ゾーン大崎敏明ソーンマネージャー（写真左）

### 災害時に物資を供給 コメリ災害対策センターと災害協定を締結

7月2日、NPO法人コメリ災害対策センター（捧雄一郎理事長）と本市は、災害時にコメリグループの物資供給網を通じて救援物資の供給を受ける協定を締結しました。同センターは、東日本大震災や熊本地震、能登半島地震などで物資を供給しています。



### 災害時に施設や物資を提供 うま農協と災害協定を締結

6月24日、うま農業協同組合（合田久代表理事組合長・写真左）と本市は、同組合の支店や倉庫などを災害時の物流拠点や支援団体の活動拠点として活用する協定を締結しました。

合田組合長は「市民の生命や財産を守るため、この協定を契機に更に連携を深めたい」と、意欲を示しました。



### 国際ソロプチミストイースト愛媛 女子児童に生理用品などを寄贈

6月25日、国際ソロプチミストイースト愛媛（好井光江会長・写真中央右）から市内の小学5年生の女子児童に、生理用品とポケットティッシュ計970個が寄贈されました。

好井会長は「会員みんなで一つつつ愛を込めて梱包しました。少しでもお役に立てばうれしく思います」と、笑顔で話しました。



### スポーツを通じて子育てを応援 大王海運グループがふるさと納税

企業版ふるさと納税で2143万円の寄付をした大王海運グループ（岩井正実代表・写真左）の9社に、大西市長から感謝状が贈られました。

6月24日に行われた感謝状贈呈式で岩井代表は、「創業の地で進む少子化を止めたい」と、今回のふるさと納税に込めた強い思いを話しました。

## 大阪・関西万博公式式典・公式催事 鳥取城北高校が書道パフォーマンス



万博参加国の文化に対する理解や親善を深める「ナショナルデー」。7月3日のジャパンデーでは、万博のメインホールで政府主催の公式式典と催事が行われました。

2連覇中の鳥取城北高校書道部です。式典のテーマ「いのちは、何度でも輝く。」を書と歌とダンスで見事に表現した同部のパフォーマンスに、会場から割れんばかりの拍手が送られました。

この日、書道パフォーマンス甲子園は、日本を代表する文化として世界の入り口に立ちました。

## ようこそ！日本一の紙のまちへ 川之江高校書道部が歓迎メッセージ



書道パフォーマンス甲子園の本戦に出場する選手や観客を歓迎しようと、川之江高校書道部が縦3段、横5段の大きな紙にメッセージを大書しました。

7月2日にJR伊予三島駅の構内に設置された歓迎メッセージは、8月16日頃まで本市を訪れた人たちに、まちの魅力を伝えてくれます。

## スカイランニングの頂点を目指して 市陸上競技協会合田睦美さんが世界大会へ



昨年の全日本選手権で上位に入賞した合田睦美さん（上分町）が10月にブルガリア共和国で開催される「マスターズスカイランニング世界選手権」に出場します。

7月1日、大西市長に出場報告をした合田さんは、「がむしゃらに頂上まで駆け上がりたい」と力強く意気込みを語りました。

## 書道のパフォーマンス 県知事・メディア各社に大会をPR



7月7日、第18回大会の宣伝を担う高校生6人が中村知事を表敬訪問しました。6人は、新聞やテレビを通じて大会の魅力を伝え、知事と共に観覧を呼び掛けました。

中村知事は「選手と同じ高校生として、大会を更に素晴らしいものにするために頑張っ

てほしい」と、6人を激励しました。

## 未来への思いが交差する スクランブルナイトで市長とトーク



7月12日、歩行者天国となった市役所前交差点で「スクランブルナイト」が開催されました。会場では、キッチンカーや愛媛銀行三島支店の壁面スクリーンが特別な雰囲気を出し、目玉企画「とことん市長とトーク」では、市民と市長が本市の未来について熱く意見を交わすなど、イベントは大盛況でした。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



## 地域教育の発展に尽力 河村英茂氏が教育長に就任

6月30日付けで新たな教育長に河村英茂氏（写真左）が就任しました。河村教育長は、土居中学校や三島東中学校の校長を歴任し、退職後は寒川公民館で子どもたちの放課後の居場所を立ち上げるなど、地域教育の発展に取り組みました。

また同日、石村義哲氏（写真右）が教育委員に再任されました。

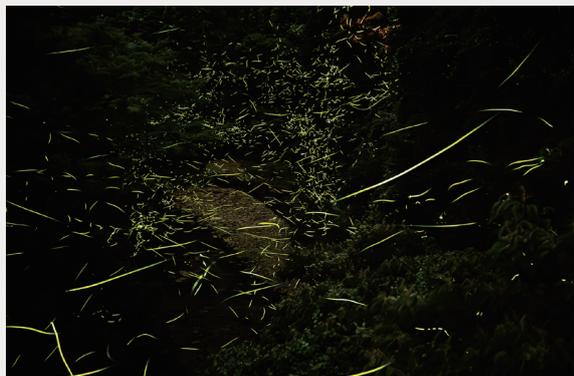


## 教育の振興に多大な貢献 東誠教育長が任期満了により退任

令和元年から2期6年にわたり、本市教育行政の舵取りを担った東誠教育長が、任期満了により6月29日付けで退任しました。

東教育長は、G・I・G Aスクール構想や新型コロナウイルスの変革期に職員や市教育委員会の先頭に立ち、労を惜しむことなく全力を尽くされました。

写真 新宮に近くの馬立川を舞う蛍たち。12枚を比較明合成



観測史上最早・最短を記録した今年の梅雨が明ける少し前、新宮町を流れる新瀬川（4ページに掲載）と馬立川をゲンジボタルが舞いました。地域の人が「ここ10年で一番多い」と話すほどの蛍を見ようと、連日多くの人が夜の新宮町を訪れ、星空と蛍による光の共演を楽しみました。



梅雨の晴れ間に  
光の共演  
新宮町の清流に  
蛍舞う

## 歩行者「天国」って？

人生初の生放送出演を体験させていただいた「スクランブルナイト」とことん市長とトークナイト。

「とことん」の響きに惑わされてわざわざ会場へ足を運んでいた方、コスモステレビやYouTube配信に時間を割いていただいた方々の期待にどれほど応えられたらどうか？穴があったら入りたい！

企画・運営にご尽力下さった方々に感謝するとともに、改めてリアルタイム・パフォーマーに心から敬服した。それでも、視聴者の皆さまに幾つかの投げかけはできたかな？と自らを慰めてみたりもする。

放送を終えて、マルシエやキツチンカーを巡り、「売売！」の声に安堵しつつ、幾つかのお店で晩ご飯や翌日の朝ご飯を調達。

その傍らで「歩行者天国は11時まで…」、「それまでに撤収して！」とのスタッフの声。人々の憩いのひとときが終わる…

あれっ？待てよ、そもそも、な



人生で歩行者「天国」なん？「天国」などと思着せがましく言われる筋合いなんてあるん？

古来より、人が往来する所に道はできた。ところが、人間が作り出した便利なモノで便利な暮らしを求めるうち、そもそもの主体は脇へ追いやられた。

交通渋滞や排気ガスの末には、交通戦争という言葉も。そして、近年は危険運転致死傷罪などという犯罪まで定義された。その対極に、東京・銀座や新宿など、大都会の幹線道路をしばし奪還する「歩行者天国」がある。

「山おこし」の御旗を掲げ、けもの道に踏み入ろうとすることに、野生生物たちは「鳥獣天国」を求めはしないだろうか？ふと、妙な不安が頭をよぎった。自然との共生・共存とは…？

そのとき、高村光太郎が耳元でささやいた。「僕の前に道は無い僕の後ろに道は出来る…」。

頭の中がスクランブルした真夏の夜だった。